

問1 東京都中央卸売市場におけるレタスの入荷状況を見ると、6月から10月にかけての夏季には長野県産の入荷が集中しています。長野県がこのように特定の時期に出荷を合わせる農業を行っている背景として、最も適切な説明はどれですか。 (2018年 神奈川県公立入試 類似)

1. 標高の高い地域の冷涼な気候を活かし、平地での生産が減少する夏に出荷することで、市場での競争力を高めている。
2. ビニールハウスや温室を利用して地熱を高め、冬から春にかけての冷え込みを避けて出荷を早めている。
3. 冬の積雪が多い期間に都市部へ出荷するため、夏のうちに収穫して長期保存する技術を活用している。
4. 梅雨や台風の影響を避けるため、収穫時期を秋から夏に前倒しして輸送コストを抑えている。

問2 1960年代以降の日本では、大都市の中心部で地価が高騰し、居住環境が悪化したことで、人口が郊外へ流出する「ドーナツ化現象」が見られました。しかし、1990年代後半からは、都市の再開発などによって再び都心部の人口が増加する現象が見られるようになりました。この現象を何と呼びますか。 (2017年 愛媛県公立入試 類似)

1. 都心回帰現象
2. ストローク現象
3. 過疎化現象
4. 郊外化現象

問3 世界の主要国の発電エネルギー源別割合について述べた以下の説明において、空欄に当てはまる国名を選択しなさい。「2013年時点の統計によると、この国は発電エネルギー源の約74.0%という圧倒的な割合を原子力発電に依存している。これは、日本の原子力発電の割合が約8%であることと比較しても極めて高い依存度である。」 (2017年 鳥取県公立入試 類似)

1. フランス
2. 中国
3. ブラジル
4. ドイツ

問4 近年、多くの農村地域で「農業の六次産業化」が注目されている背景として、農業経営における最大の目的は何ですか。その仕組みを踏まえて説明したものを選びなさい。 (2017年 秋田県公立入試 類似)

1. 加工や販売の工程を農家が自ら担うことで、農産物に新たな付加価値を付け、農家の所得を向上させること
2. 農産物の輸出を拡大するために、食品加工会社を誘致して工業団地を形成し、地域の雇用を創出すること
3. ドローンやAIを活用したスマート農業を推進することで、労働力不足を補い、生産量を大幅に増やすこと
4. 卸売市場を通さずにすべての農産物を自家消費に回すことで、食料自給率の向上と地産地消を徹底すること

問5 2021年の統計によると、茨城県は県面積が約6097平方キロメートルで、そのうち田が953平方キロメートル、畑が670平方キロメートルです。一方、宮崎県は県面積が約7735平方キロメートルで、田が346平方キロメートル、畑が301平方キロメートルとなっています。これらの数値から算出される、県面積に占める「耕地面積（田と畑の合計）」の割合について正しく述べたものはどれですか。 (2024年 茨城県公立入試 類似)

1. 茨城県の耕地面積割合は約26.6%であり、宮崎県の約8.3%よりも高い。
2. 宮崎県は県面積が茨城県より広いので、耕地面積の割合も茨城県より高い。
3. 茨城県と宮崎県の耕地面積を比較すると、宮崎県の方が田と畑の合計面積が広いので、割合も高くなる。
4. 両県ともに県面積の30%以上が耕地として利用されており、全国平均を大きく上回っている。

問6 北海道が収穫量1位であり、長崎県が上位に含まれる農産物の生産状況について述べた文として、最も適切なものはどれですか。 (2023年 熊本県公立入試 類似)

1. 北海道では大型機械を用いた大規模な畑作が行われ、長崎県では温暖な気候を活かした栽培が行われている。
2. 北海道ではシラス台地を利用した畑作が行われ、長崎県では棚田を利用した米作りが盛んである。
3. 北海道では近郊農業として都市部への出荷が中心であり、長崎県では促成栽培が主力となっている。
4. 北海道では水田の裏作として栽培されており、長崎県では抑制栽培によって出荷時期を遅らせている。

問7 日本を代表する4つの工業地帯（京浜、中京、阪神、北九州）の工業出荷額の内訳を比較した際、輸送用機械器具の割合が約46%と全体の半分近くを占めている工業地帯を次から選びなさい。 (2021年 島根県公立入試 類似)

1. 京浜工業地帯
2. 中京工業地帯
3. 阪神工業地帯
4. 北九州工業地帯

答え合わせ・解説

問1	答え 1 標高の高い地域の冷涼な気候を活かし、平地での生産が減少する夏に出荷することで、市場での競争力を高めている。	長野県の高原地域では、夏の涼しい気候を利用して野菜を育てる「高冷地農業」が盛んです。平地では気温が高すぎてレタスなどの栽培が難しくなる夏場に収穫時期を合わせることで、他の産地との競争を避け、有利な条件で販売する工夫がなされています。
問2	答え 1 都心回帰現象	かつての日本では、都心の居住人口が減り、郊外の人口が増える「ドーナツ化現象」が一般的でした。しかし、バブル経済崩壊後の地価の安定や、都心の工場跡地などを利用した大規模な再開発、高層マンションの建設が進んだことにより、職住近接を望む人々が再び都心に住むようになりました。
問3	答え 1 フランス	フランスはエネルギー資源の自給率向上や、安定した電力供給、温室効果ガスの排出削減を目的として、1970年代の石油危機以降、国策として原子力発電を強かに推進してきました。その結果、世界でも類を見ないほど原子力への依存度が高い電力構成となっています。一方でブラジルは豊富な水資源を活かした水力発電の割合が高く、中国や日本（2013年当時）は火力発電の割合が高いという特徴があります。
問4	答え 1 加工や販売の工程を農家が自ら担うことで、農産物に新たな付加価値を付け、農家の所得を向上させること	農業の六次産業化は、1次（生産）×2次（加工）×3次（販売）＝6次という考え方に基づいています。単に農作物をそのまま出荷するのではなく、加工品にしたり自ら販売ルートを開拓したりすることで、価格決定権を農家側が持ち、付加価値を自らの利益として確保することが狙いです。これにより、農村での雇用の維持や所得の増大を図り、地域経済を活性化させる背景があります。工業団地の誘致や生産量の拡大は、農家自身が主体となる六次産業化の主旨とは異なります。
問5	答え 1 茨城県の耕地面積割合は約26.6%であり、宮崎県の約8.3%よりも高い。	耕地面積は「田」と「畑」の面積を合わせたものです。茨城県の耕地面積は1623平方キロメートル（953+670）となり、県面積に占める割合は約26.6%と算出されます。一方、宮崎県の耕地面積は647平方キロメートル（346+301）であり、県面積に対する割合は約8.3%です。茨城県は関東平野という広大な平地を有しているため、山地の多い宮崎県と比較して、県土に対する農地の割合が非常に高いという特徴があります。
問6	答え 1 北海道では大型機械を用いた大規模な畑作が行われ、長崎県では温暖な気候を活かした栽培が行われている。	この農産物はじゃがいもを指します。北海道（特に十勝平野など）では、トラクターなどの大型機械を導入した大規模な経営が行われています。長崎県では、冬から春にかけての温暖な気候を利用し、北海道産が出回らない時期に収穫・出荷する工夫がなされています。シラス台地での畑作は主に鹿児島県のさつまいもに見られる特徴です。
問7	答え 2 中京工業地帯	愛知県を中心とする中京工業地帯は、豊田市などの自動車産業が極めて盛んな地域です。そのため、工業出荷額に占める輸送用機械器具の割合が約半分に達するという、他の工業地帯には見られない際立った特徴を持っています。これに対し、京浜工業地帯は印刷や機械、阪神工業地帯は金属や化学の割合が相対的に高い傾向にあります。